

# 中美連 しが NEWS

2025

11



## 第29回 滋賀県中学校 美術部展

グランプリ

井上 咲希（日吉中学校）

「愛を秘めているあなたへ。」

滋賀県立美術館での開催となりましたが、参加いただいた49校には、「生徒の思い」が伝わってくる素晴らしい作品を多く展示していただきました。ありがとうございました。今年度は、祝日の会期を含んだこともあり、7日間の会期で2,728名と、多くの方々に鑑賞いただきました。

鑑賞者から「学校によって指導の力の入れ方が違うように感じました。どんな世界でも指導者からの影響は大きいものですね。」「力作ぞろいの作品ばかりで顧問の先生の指導に感心しています。」「普段なかなか中学校の作品を見る機会はないですが、滋賀の美術を盛り上げてほしいと思います。」といった感想をいただきました。生徒の頑張りと共に、改めて学校としての、私たち顧問の指導力や責任の重さを感じる機会をいただいた気がします。

来年度も滋賀県立美術館開催で、7月27日（月）の搬入を予定しています。開催日程が早く、制作期間が短くなることが予想されますので、時間の確保ができるようご配慮ください。みなさまのご協力で来年度以降も、この美術部展が継続発展していけるよう、よろしくお願いいたします。

事業部長 齋藤 隆介



## 準グランプリ

「紡ぐ情熱」 左写真  
栗本 菜寧実（草津中学校）

「家族の思い出」 下写真  
白土 伊織（松原中学校）

### 学校賞

草津市立 松原中学校  
大津市立 打出中学校  
大津市立 日吉中学校  
彦根市立 中央中学校  
草津市立 草津中学校

### 審査員特別個人賞

相見 美月（玉川中学校）  
宮良 結衣（甲西北中学校）



——個性があり、感性も豊かでほほえましい気持ちになりました。学生の今の時期にしか描けないものがあると思うので、思いっきり表現してほしいです。ありがとうございました。

——様々な表現があり、才能のある作品もたくさんありました。普段なかなか中学校の作品を見る機会はないですが、滋賀の美術を盛り上げてほしいと思います。

——どれも素晴らしい作品ばかりで、とても楽しませてもらいました。それぞれ絵を描く視点などが色々あって面白かったです。作品が完成するまでの頑張りなども伝わってきました。良かったです

来場者の感想より



# 令和 7 年度 夏期研究大会

8月1日（金）に大津市立仰木中学校で夏季研究会を開催しました。36名の参加者がありました。『つくろう！「正解のない問い」と出会う美術の授業』というテーマで行いました。

研究会の最初には私から今年度の研究方針について発表をしました。

『「正解のない問い」にどのようにであわせていますか？—評価、作品の完成度、生徒がスムーズに取り組めないといった課題を解決するために—』というテーマのもと今年度研究を進めていきます。

美術の授業において正解のない問いを生徒に出すことが「自分で考え、判断し、表現する力」「多様な価値観を尊重する姿勢」「自分なりの答えをつくる力」「自己肯定感やアイデンティティ」の育成に効果的であると美術教師の多くはわかっています。しかし、頭ではわかっている、説明責任が問われる現場では「評価のしやすさ」「作品の完成度が上がる」「生徒がスムーズに活動する」といった、目先の結果を求めてしまい、ついつい正解のある問いを出してしまう傾向にあります。そこで、正解のない問いを出した時に生じる評価の問題・作品の完成度の問題・生徒がスムーズに取り組めない問題をどのような手立て・工夫でクリアしていけるかを研究していきます。このような研究方針を参加者の先生にお伝えしました。

つづいて、打出中学校の梶岡創先生より「美術の授業づくりの基本について」というテーマで発表していただきました。授業前に教師が準備すべき「内容のまとめり」や「主題生成」について説明があり、また授業中に教師が工夫する必要がある「課題の示し方」や「生徒のつまずきに対する手立て」について実践を交えながら教えていただきました。

参加者からは「今までの自身の授業と照らし合わせて復習できる機会となりました。」「主題とは？という話題の中で、題材は雫、主題は波紋と言っておられたことがわかりやすく印象的でした。」「難しい内容はこちらが答えを言うのではなく、対話させて答えに導かせることが重要。」「といったアンケートの回答がありました。

その後、「美術の授業づくりの実践事例」というテーマで私が発表しました。

中学3年生で長年取り組んでいる1つの題材を「①生徒の実態に応じた題材設定」「②目標を明確にする」「③鑑賞活動の工夫」「④評価は多面的に」「⑤環境づくり」の5つの項目で実践例を示しながら話しました。参加者からは「3年を通して、内容のまとめり、バランスをみることや生徒が向かうべき方向を示すことの大切さを再認識できた。」「評価のやり方、生徒の意見ややる気をどう引き出すか大変勉強になりました。」「作品をあまり見ないというのが新鮮だった。授業内で手元を見られるように様々な工夫をしたいと思う。」「といったアンケートの回答がありました。



研究会後半では、前半の講話を受けて、4人1グループの9つの班で授業づくりをしました。各班1人の先生に事前に「実施したが（実施しようとしているが）うまくいかず悩んでいる実践」を持ってきてもらうようお願いしておきました。各班で交流しながら、実践のアップデートをしました。参加者からは「既に考えてくださっている指導案を基に考えるという取り組みがとても良かったです。授業の内容についても参考になりました。自分以外の先生方も同じ場所で悩み、苦労されているんだとわかり安心しました。」「自信のない授業ばかりで…でも少しでも一緒に考えてもらったことや改善点を教えていただけてよかった」といったアンケートの回答がありました。

研究会全体を通して、「授業づくりの基本」とは普遍的な要素もあるけれど、時代や生徒の事態に合わせて変化させていくべき要素もあると気付きました。つまり「若手だから基本を学ばないといけない」や「ベテランは経験を積んでいるから基本は大丈夫」というものではなく、常に変化している社会に適応するように誰しもが「基本」を学び続けなくてはいけないということです。そんな今の社会に必要な美術の授業の「基本」を学ぶ良い機会となりました。

滋賀中美連では、参加者が気軽に参加して楽しめる魅力的な内容の研究会を企画していますので、ぜひご参加ください。

研究部長 北崎丈士

## 第 52 回 滋賀県中学校美術教育研究大会

「正解のない問い」にどのように出会わせていますか？

2026 年 1 月 23 日(金) 豊栄のさと【滋賀・犬上郡】

普段学校内では美術教員が少なく授業づくりの相談ができない課題を解消しようと、この数年、滋賀県中学校美術教育連盟では若手中心のグループをつくり、授業研究をしてきました。今年も年度初めから研究チームを発足し、チームメンバーの8人を中心に授業づくりの会議を重ねてきました。

今年は『「正解のない問い」にどのようにであわせていますか？一評価、作品の完成度、生徒がスムーズに取り組めないといった課題を解決するために一』をテーマに、正解のない問いを出した時に生じる〈評価の問題〉〈作品の完成度の問題〉〈生徒がスムーズに取り組めない問題〉をどのような手立て・工夫でクリアしていけるかを研究しました。

10月には「今の自分、瞬間を切り取る」という題材名で八幡西中学校の2年生で研究授業を行いました。1月には北海道教育大学附属釧路義務教育学校の堤祥晃先生をお招きし、「授業のベースにあるもの」をテーマに講話していただきます。美術の授業づくりの基本的な部分を考える機会になります。ぜひ一緒に美術教育のアップデートをしましょう。

また、毎年開催している滋賀県中学校美術教育展では、滋賀県内の中学校の実践が一堂に観ることができます。この展覧会は教師のための展覧会であり、「注目題材」と銘打って同じ題材の作品を複数点展示します。参観した先生方の今後の活動に活かせるよう展示に工夫を凝らしています。参加された先生方と一緒に作品を鑑賞し、自校に持って帰れるような取り組みをしていきますのでご期待ください。

研究部長 北崎丈士

本連盟は、県内の中学校美術科教員1名500円の会費によって印刷、連絡などの運営を行っています。各都市代表の先生方は、各都市の会費をとりまとめ、研究大会の準備時などに持ち寄っていただけますよう、よろしくお願いいたします。